



収受年月日	議長	事務局長	書記
2022.12.07			
第 112 号			

令和2年12月7日

埴町議会議長 割貝 寿一 様



総務常任委員会委員長 七 宮 広 樹



所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第77条の規定により報告する。

記

1 調査事件 シェアハウスと一人暮らし世帯支援の現状について

2 調査経緯

本委員会は、新設されたシェアハウスの概要と、町内の一人暮らし世帯支援の現状について、担当課から聞き取りと合わせて現地調査を行った。

調査日 令和2年10月22日(木)
出席委員 七宮広樹、鈴木元久、鈴木 茂、青砥與藏、吉田広明、金澤太郎
割貝寿一
説明員 健康福祉課長、高齢者支援係長、高齢者支援係主査
職務出席者 議会事務局長、書記
場 所 委員会室及び現地

3 調査結果

(1) シェアハウスの概要について

今年度、高齢者が安心して住み続けることができる町づくりの推進及び移住定住の促進を図るため、埴町高齢者等共同住宅(シェアハウス)が町所有の建物を活用し、工事費16,910,300円をかけ大規模な改築工事が完了した。

ロケーションは埴町商工会南側に位置し、役場や厚生病院、商店街に近く利便性も良く、駐車スペースも確保されていた。現地調査の前に、平面図上で利用者の使い勝手に配慮した間取りを確認し、関連条例について説明を受けた。

まだ利用者はいないが、冬季期間に利用する高齢者の動向に注視しながら、町民交流の場として、また埴町内での生活体験の場として、使用方法等を照査しな

がら、町民のために役立つ施設になる事を願う。

その後、現地に移動し建物内のバリアフリー、手すり、IHクッキングヒーターの設備を確認した。利用者が安心安全で快適に過ごせる住環境が確保されていたが、寝具やエアコン以外の暖房器具は持ち込みとなるため、リース会社の斡旋など使い勝手について協議すべきと感じた。

(2) ひとり暮らし世帯支援について

①高齢者見守り事業は、訪問員32名の地道な活動により対象者100名を支援し、目的を果たしているが、訪問員の任期が無く高齢化も進み人材確保に苦慮している状況であった。3年前に訪問員の謝金を月額800円から1,000円に増額したが、更に今後の対応や対策が必要と受け止めた。


②緊急通報装置の貸与状況と現状については、今後も急病や災害等の緊急時に迅速かつ適切な対応を図るために重要な福祉施策と受け止めた。

③救急医療情報キットの配布については、65歳以上の一人暮らし高齢者を対象に令和2年9月末の配布者数は488名で、緊急時に備えた取り組みについて説明を受けた。このキットは安価で導入しやすく消防救急隊員に役立ち、敏速な初期措置には必要不可欠と聞く。今後は配布の間口を広げ、全町民に配布できるよう検討してもらいたい。

④高齢者等の見守りには、埴、笹原、高城、石川の各郵便局をはじめ、埴町ガス組合、マスコミ各社が協定を締結し、埴町社会福祉協議会と埴町赤十字奉仕団が連携し地域高齢者等を支援しているが、引き続き多くの企業と町民の参加が必要と感じる。今後の展開として様々な取り組みを交え、きめ細かく支援できる環境を整え、地域一丸となって取り組む方向性の構築を願う。

4 委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	委員長	事務局長	書記
2021.10.2			
第 号	議員派遣・委員派遣		
所管事務調査報告書			

令和2年11月2日

総務常任委員会
委員長様



提出者 七宮 広樹

派遣目的 (調査等名称)	総務常任委員会		
派遣の日時	令和2年10月22日(水)	派遣先 (場所)	シェアハウス(現地)
内容	シェアハウスと一人暮らし世帯支援の現状について		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>1) シェアハウスと一人暮らし世帯支援の現状について</p> <p>今年度、高齢者が安心して住み続けることのできる町づくりの推進及び移住・定住の促進を図るため、埴町高齢者等共同住宅(シェアハウス)が町所有の建物を活用し、工事費16,910,300円をかけ大規模な改築工事が完了した。</p> <p>ロケーションは埴町商工会南側に位置し、役場・病院・商店街に近く利便性も良く、駐車スペースも確保されていた。建物の1階・2階の平面図を参照し、利用者の使い勝手に配慮した間取りと埴町高齢者等共同住宅設置条例について説明を受けた。</p> <p>まだ利用者はいないが冬季期間に利用する高齢者の動向や、町民の交流の場としての動向・埴町での生活体験の場としての動向を実証し、更なる使い方・使われ方について照査し、町民の為に役立つ施設になる事を願う。</p> <p>その後、移動し建物内のバリアフリー・手すり・IHクッキングヒーターの設備を確認し、利用者が安心・安全に快適に過ごす住環境が確保されていたが、寝具やエアコン以外の暖房器具は持ち込みの為、リース会社の斡旋など使い勝手について協議すべきと感じた。</p> <p>2) ひとり暮らし世帯支援</p> <p>高齢者見守り事業は、訪問員32名の地道な活動により対象者100名を支援し、目的を果たしているが、訪問員の任期が無く高齢化も進み人材確保に苦慮している状況であった。3年前に訪問員の謝金を月額800円から1,000円に増額したが、更に今後の対応・対策が必要と受け止めた。</p> <p>3) 緊急通報システム(装置)事業</p> <p>緊急通報装置の貸与状況と現状について説明を受けた。今後も急病や災害等の緊急時に迅速かつ適切な対応を図る為にも手合い福祉と受け止めた。</p> <p>4) 救急医療情報キットの配布</p> <p>65歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に配布され、令和2年9月末配布者数488名に渡され緊急時に備えた取り組みについて説明を受けた。安価で役立つ救急医療情報キットは特に消防救急隊員に役立ち敏速な初期措置には必要不可欠と聞く、今後は間口を広げ全町民宅に配布することを願う。</p>		

派遣結果 (意見及び 感想)	<p>5) 他機関との連携</p> <p>高齢者等の見守りには、埴・笹原・高城・石川郵便局を始め、埴町ガス組合・福島民報・福島民友新聞社が協定を締結し、埴町社会福祉協議会・埴町赤十字奉仕団が連携し地域高齢者等を支援しているが、引き続き多くの企業と町民の参加が必要と受け止めた。今後の展開として様々な取り組みを交え、きめ細かく支援できる環境を整え、地域一丸となって取り組む方向性の構築を願う。</p>
----------------------	---

收受年月日	委員長	審議局長	書記
2.10.30	委員派遣	藤田	根本
第 号			

研修等報告書

2年 10月 30日



議会議長
委員会委員長

様



提出者 鈴木元久

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和2年10月22日(木) 9時30分～	派遣先 (場所)	委員会室及び現地
内容	シェアハウスと一人暮らし世帯支援の現状について		
調査のねらい	<p>堀町高齢者等共同住宅(シェアハウス) 令和2年度～令和3年度(繰り越し事業)工事費16,910,300円 施行者:建築鈴木株式会社 ・高齢者が安心して住み続けることのできる町づくりの推進及び移住・定住の促進を図るための施設 事業 (1)高齢者(65歳以上の者)の冬の安心確保の場としての高齢者共同住宅 (2)市民の交流の場としてのコミュニティ増進施設 (3)堀町での生活体験の場としての滞在型住宅 使用料は1部屋あたり1日500円1泊2日1500円1ヶ月12000円(冬期間12月～3月) 独居世帯状況 堀地区105名常盤地区29名笹原地区102名と石井高城地区110名一人暮らし合計346名 1)高齢者見守り事業 目的 高齢者の生活及び健康の不安に対処し緊急時の訪問活動を行うことにより高齢者の安心を確保する。 内容 ①訪問員による月1回以上の見守りの実施 ②高齢者の心身の状況等の実施 ③関係機関との連絡調整 謝金月額1000円 令和2年9月末対象者100名 訪問員32名 ・65歳以上の独居高齢者に訪問希望の意思確認の上希望者を対象に2名体制で訪問 ・行政区を基本として地区民生員との情報交換及び研修会を開催 2)緊急通報システム 目的 緊急通報装置を貸与することにより病や急病の緊急時に迅速な対応が図れることにより福祉の増進に資する 対象 ①おおむね65歳以上のひとり暮らし老人で前年住民税非課税世帯 ②ひとり暮らしの重度身体障害者等 3)救急医療情報キットの配布 地域毎に民生委員若しくは見守り隊が訪問し内容を説明の上配布(記載指導) 令和2年9月末配布者数488名 4)他の機関との連携 ①協賛関係 平成29年6月1日 堀 笹原 高城 石川 郵便局 平成30年6月25日 堀町がく組 堀町民報・福島民友新聞社をはじめ多くの企業と協定を締結 ②堀町社会福祉協議会 ひとり暮らし高齢者交流会 歳末助け合い訪問 順興旅行社 ③堀町赤十字会 ④警察・消防合同訪問 火災予防・詐欺防止等のための各戸訪問</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>質疑・応答 ・謝金1000円は安い 詳細は800円単位 検討したい、 ・見守り隊30名最高齢者8歳 ・非常階段について、1日と1泊の区切りは細部検討的 ・原則 食事・布団等は各自用意 ・11月迄の12月迄は11月に民生委員の総会実施 ・部屋半部屋しかないので1泊は無理 2階に1部屋 登り降りが大変なところか ・堀町の健康診断を受けている人が多く 時間が区切りで高齢者は足の確保が大変</p>		

收受年月日	委員長	事務局長	書記
2020.10.20			
第 号			



総務常任委員会所管事務調査報告書

提出者 鈴木茂

日時 令和2年10月22日(木)

場所 委員会室及び現地

シェアハウスと一人暮らし世帯支援の現状について

1) 塙町高齢者共同住宅(シェアハウス)

工事費 1,690 万をかけて令和2年6月にできたシェアハウスは一階3室、2階1室で1日500円から利用でき冬期間(12月～3月)は住むことができる。

2) ひとり暮らし世帯支援事業

1) 65才以上の一人暮らし世帯見守り事業

見守り隊による、月1回の訪問、IP電話による声かけを行っている。

2) 緊急通報システム装置貸与事業

3 緊急医療情報キットの配布

4) 他機関との連携

町内の郵便局、ガス組合、新聞社との連携を行い、又町社会福祉協議会、町赤十字奉仕団、警察、消防に見守りをお願いしている。

所見

シェアハウスはベッドや寝具などの生活用品の持ち込み、食事など短期間としては大変であり、入所があるかどうか注目すべきところである。

高齢者見守り事業は手厚く行われていると思われる。そんな中で今年度ひとりの孤独死があり、見守る上で全員の方とコミュニケーションが取れないのでなかなか完全には行かないものと思う。

収受年月日	期長	派遣員	書
2026.10.2	委員	藤田	調査
第 号			根本

研修等報告書

令和2年10月26日

総務常任委員長 様



提出者 青砥 與藏

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会事務調査報告書		
派遣の 日時	令和2年10月22日	派遣先 (場所)	委員会室及び現地
内容	(1) シェアハウスの現状調査 (2) 一人暮らし世帯支援 (通報システムなど)		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	(1) シェアハウスの現状 概要及び現地を調査し、入居者が使いやすい状況であった。 今後新型コロナウイルスがどうなるか不透明であるが、 町の重要施策として着手した事業であるため、 ニーズに合った運営や対応を望む。 (2) 一人暮らし世帯支援 ・高齢者見守り事業は、見守る側も高齢化が進んでいる状況で 人選や制度自体 (報酬など) を見直す時期に来ていると感じる。 ・緊急通報システムや医療キットは、 委員会内質疑でも出た、一人暮らし世帯以外にも 活用できる方法があれば、より制度が町民に浸透するのではないか。		

授受年月日	委員長	事務局	調査研	修等報告書
2.10.26	委員派遣	藤田	根本	
第 号				

令和 2 年 1 0 月 2 6 日

七宮 広樹 総務常任委員長 様



提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会事務調査報告書		
派遣の 日時	令和 2 年 1 0 月 2 2 日	派遣先 (場所)	委員会室及び現地
内容	シェアハウスと一人暮らし世帯支援の状況について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1、 埴町高齢者等共同住宅（シェアハウス）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域の冬季間の 12 月～3 月まで、使用料は、月額 12,000 円と低額でもある。独居老人世帯対策として、必要不可欠な施設である。また、滞在型生活体験の施設として、1泊2日/1,500 円で利用できるのは良い事でもある。 ・ 改修費は、工事費 16,910,300 円、改修床面積 93.55 平米(約 28.35 坪)坪単価/約 596,483 円で、概ね新築の建物となる。 ・ 試験的ではあるが、町有財産の有効活用は良い事ではないか。また、改修費が高額な投資なので、運用で必要なデータを取り、有効な活用を切に望む。予算や構造上、空間確保やプライバシーの確保が難しかったと思われ、今後の運用課題でもある。国や県も地方の地域性を考慮し、積極的な関与が望ましく思う。 <p>2、 ひとり暮らし世帯支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者見守り事業の大切さは町民も理解している所でもあるが、職務内容以上に気遣いもあると聞く。<u>月額報酬/1,000 円は見直すべきである。</u> ・ 緊急通報システム（装置）事業は、平成 3 0 年度 8 5 4 件の利用があり、増加傾向である。定期的に業者から連絡するなどがあるが、更なる効果的な運用を望む。一般世帯も加入が出来ないかとの声もあり、検討すべきである。 ・ 救急医療情報キットは、救急対応に便利なツールである。緊急情報シートを全戸配布予定と聞くが、キットの全戸購入も考えて欲しい。 ・ 他機関との連帯は、他町村のガス会社との取引もあるので、協定を結んでどうかと提案があり、検討すべきである。 		

収受年月日	委員長	委員派遣	音
2010.03	七	藤田	根本
第	号	議会議長	

調査研修等報告書

令和 2 年 1 0 月 3 0 日

委員会委員長

様



提出者 金澤 太郎

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 2 年 1 0 月 2 2 日 9 時 3 0 分より	派遣先 (場所)	委員会室および 高齢者等共同住宅
内容	シェアハウスとひとり暮らし世帯支援について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	●シェアハウス		
	1) 埜町高齢者等共同住宅設置条例		
	おおむね基本的な使用についての規定が網羅された条例になっている。		
	利用対象者もフレキシブルに対応可能な条例であり、柔軟性を持って運用		
	できるものと思われる。		
	今後利用開始に当たっては利用規約等が作成されていくと思うので、詳細		
	を注視していく。		
	2) 現地視察		
	・既存建物の改装のため、通路幅等を考えるとドアは引き戸が良いのかと		
	思ったが、他者とのシェアハウスであることを考えると、プライバシーの		
確保には引き戸にしなかったことの利点もある。			
・自活できる方を対象とした施設だが、高齢者が利用することとドアが			

全室外開きのレイアウトを考えると、階段以外も手すりが必要ではないか。転倒事故防止の観点から検討願いたい。

・台所のコンロがガス式から IH 式に変更されたことは評価できる。ただし、3口コンロタイプが設置されており、奥のコンロを使用した場合の、火傷・引火の可能性があり、安全面からは2口コンロの方がよいと思う。この件については、消防の職員からも同様の意見が出ていたとのことなので、検討願いたい。

●ひとり暮らし世帯支援

1) 高齢者見守り事業

民生委員のボランティア活動に支えられている実情が把握できた。個人の生活空間に入っていく活動なので、労苦も多いと思うが、独居者の生活実態の把握と、社会からの孤立化を防ぐ二重の役割を持っていると思うので今後も是非継続すべき活動である。ただし、ボランティアを前提としているが、今後の高齢化社会には必要不可欠な活動であり、数年前に見直しをしたと伺ったが、月1,000円の謝金は再考すべきと考える。

2) 緊急通報システム

独居高齢者・独居障害者等にとって非常に役立つシステムである。ただし、対象者以外の一般家庭においてもニーズのあるシステムと思う。現在運用から同居者ありの場合に不要なシステムを除き、基本の緊急通報に絞ったシステムにするなどして希望者宅に設置することも是非検討願いたい。

3) 救急医療情報キット

救急医療キットの実物を見て、体調急変時に必要最低限の情報がまとめてあることの有用性を改めて認識しました。このキットの必要事項記入用紙を見ると、緊急時に必要な最低限の情報が何なのかもわかり易く、一般家庭でも便利なキットです。

緊急通報システム同様、希望者に販売することを是非検討願いたい。

4) 他機関との連携

当町にあっても、以前と比較して近所付き合いが希薄化しているのが実情であり、生活必需品であるガス等の事業者と連携協定を結び、最低限の安否確認ができる体制は是非継続して頂きたい。ガス会社については、他町村からのガス会社も見受けられるので、町外事業者へも拡大を願う。

警察と消防の合同各戸訪問事業では、独居高齢者を中心にしたようだが、個人情報の取り扱いについては正式に文書を交わしてやり取りしたことが確認できた。

以上

収受年月日	委員長	事務局長	書記
2.12.1	議員派遣 七 委員	派遣 田	調査 本
第 号			

研修等報告書

令和 2年 10月 / 日

議会議長
委員会委員長 様



提出者 劉貝春一

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会 所管事務調査		
派遣の 日時	令和2年10月22日 9:30 ~	派遣先 (場所)	委員会室及び現地
内容	シェアハウスと一人暮らし世帯支援の現状 について。		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>建物の構造からして、シェアハウスに 合っているのか 工事費 ￥1700万丹 かけてまで 造る必要があるのか 1. 2年 利用状況とみて検証が必要と思ふ。</p> <p>一人暮らし高齢者の支援の現状については 民生委員等体制はできていると思ふ。</p>		